きっかけは　この場から

中央市立玉穂生涯学習館 編

玉穂生涯学習館では、年間をとおしてさまざまなイベントを開催しています。

これまで不定期実施だった「図書館シネマ」を、今年度より毎月実施しています。図書館で気軽に映画を見ようと参加者も増え、地域でのコミュニティも出来つつ、映画をきっかけに誘いあい図書館に足を運んでいただく姿も見られるようになっています。

また1階ロビーをみなさんの学びや趣味の成果を発表する場として貸し出し、展示と一緒にワークショップも開催しています。

図書館でのさまざまな体験により心を潤し、“くつろぎの場”として気軽にご利用いただければと思います。

（中央市立玉穂生涯学習館　芦沢 祐可）

図書館シネマの様子

「ロビーギャラリー」として
趣味の発表の場を提供しています

図書館ボランティアの日常から

Vol.15　図書館に癒しの空間を ～環境整備分野～

月2回ほど、多目的ホール前のテーブルにお花を生けています。「季節感があっていいですね」などお声掛けいただくこともあり、やりがいを感じます。トークショーのステージを飾るアレンジメントを担当するときには、華やかな雰囲気になるよう心がけています。

ご来館の際には、お花にも目を留めていただけるとうれしいです。

（図書館協力会事務局）

Information

2026年度下半期のイベント

10月12日（月・祝）　山梨県中高生ジョイントコンサート

学校ごとの合唱や合奏だけでなく、学校の枠を越えたコラボ企画も飛び出します。中高生が奏でるフレッシュな音楽をどうぞお楽しみください。

1月30日（土）　放送大学公開講座 地下から出てきた王朝文化 ー甲州市ケカチ遺跡出土和歌刻書土器の世界ー

2016年、甲州市で出土した「和歌刻書土器」の謎に迫ります。また、都の文化がどのように伝えられていたのかについても考えます。

精読に速読、黙読に音読、そして積読に…？ 読書って何だ!?

副館長 東一孝からのひとこと箋

本の読み方は人それぞれです。何を読むか、どこで読むか、これも人それぞれ。積読は未来の自分への招待状であり、再読は過去の自分との再会。図書館は既読を増やす場所であると同時に、未読を発見する場所でもあります。さあ、図書館に来て、新しい自分探しの旅、始めてみませんか？

山梨県立図書館
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

山梨県立図書館報
読書山梨160号
発行日 2026年 10月1日

発行:山梨県立図書館(かいぶらり)
〒400-0024 甲府市北口2丁目8番1号
TEL:055-255-1040(代表)　255-1041(施設予約)　FAX:055-255-1042
URL　https://www.lib.pref.yamanashi.jp/
E-mail　ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp

読書山梨

YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY
山梨県立図書館報
160
2026.10.1 発行

AIと俳句

館長コラム

某俳句コンテストの審査員をしています。200 万通以上の応募があるんだそうです。俳句ブームは真っ盛りかもしれません。その 200 万通の中から最も優れた俳句を選び出すのは、人間業ではできません。なかには AI で作りくりだした句も含まれているかもしれません。

どうしたら防げるだろうか、主催者に訊かれました。それは不正だというわけです。

審査員たちの多くは、AI でもいいんではないかという意見が大勢でした。人が作る限界を超えたものが読んでみたい。俳句という芸術を超えていくものが現れればそれはそれで受けとめるべきだ。言語芸術の前衛性は、そこまで進んでいます。俳句は 5・7・5 音の言葉を連ねれば、そこに季語があればできてしまいます。たとえば戦時中の渡辺白泉の名句と言われる「戦争が廊下の奥に立っていた」などと言うのは、いわゆる伝統的な俳句を超えていて人の心をとらえます。

俳句を楽しむ風潮の一つの要素には、俳句を作る喜びと同時に、句を読んで楽しむというのがあり、例えば白泉の句を AI が見て俳句であると選ぶだろうか、疑問です。AI は少なくとも俳句の世界で人間に代わることができません。俳句を楽しむことは人間の独壇場に残されているように思います。

この本が好き！

図書館スタッフおすすめの１冊

日本の特別天然記念物であるライチョウ。ライチョウの1年の暮らしと忍び寄る危機、そして保護活動などをわかりやすくまとめ、ライチョウの未来について考える写真絵本です。

『お山のライチョウ』

戸塚　学／写真・文　小宮輝之／監修　偕成社 2022.7

ライチョウについて知ろう

山梨県立図書館
企画振興担当
奥﨑　光

ライチョウをご存じでしょうか。もふもふの足にまんまるな体のとても愛くるしい姿をした鳥です。この本には、夏には薄い茶色なのに冬には真っ白になる姿や子育ての様子、どのように１年を過ごすかなど、様々なライチョウの写真が載っています。さらに地球温暖化が原因でライチョウの数が減っていることや保護活動についても書かれています。ライチョウの知識を増やすだけでなく、環境についても考えさせられる１冊となっています。この本を読むと、きっとライチョウを一目見たくなるに違いありません。

「入館者1,000万人達成記念セレモニー」が行われました

平成24年11月11日の新館開館以来4,879日目となる令和8年3月21日に、入館者数が1,000万人を突破しました。同日の午後2時から記念セレモニーを開催し、1,000 万人目の入館者となった山梨市在住の堀江さん親子に、当館からの感謝を込めて記念品として、金田一秀穂館長のサイン色紙、サイン入り著作『あなたの日本語だいじょうぶ？』、花束を贈呈しました。

当館は、平成25年5月25日に50万人、同年11月20日に100万人、平成27年1月10日に200万人、平成30年4月21日に500万人をそれぞれ達成して参りました。開館以来、多くの皆様にご利用いただいていることに、改めて感謝申し上げます。今後も図書館サービスの一層の充実を図り、地域の知の拠点として年齢や障害、国籍等を問わず誰もが学びにアクセスできる環境の構築に努めて参ります。

（総務担当　関本）

「小泉 凡氏講演会＆金田一秀穂館長とのトークショー」を開催しました

令和8年2月21日、イベントスペースにて「小泉凡氏講演会&金田一秀穂館長とのトークショー」を開催しました。小泉凡さんは、民俗学者で小泉八雲のひ孫にあたる方です。NHK 連続テレビ小説「ばけばけ」の影響もあり、当日は多くの参加者が会場に詰めかけました。

前半の講演では、「現代によみがえる小泉八雲とセツ、そして怪談―『ばけばけ』を最後まで楽しむために―」をテーマに、八雲の歩んだ人生や創作の背景、セツの果たした重要な役割などが語られました。中でも、八雲が世界各地を漂泊しながら五感を研ぎ澄ませ、多様な価値観を受け入れる「オープンマインド」を醸成したこと、また、その精神性こそが、本質に迫ることを可能にしたのではないかという凡さんの指摘は、多くの参加者の心に響きました。

後半のトークショーでは、凡さんと金田一館長が、毎夏山梨を訪れていたという共通体験をもとに山梨の魅力を語り合い、会場から寄せられた質問にも回答しました。「お気に入りの怪談は?」との問いには、凡さんが「お貞の話」を、館長が「貉」を挙げ、それぞれの作品の魅力を紹介しました。

2時間のプログラムはあっという間に過ぎ、参加者は充実した表情で会場を後にしました。

（企画振興担当　望月）

テーマ展示の報告

Welcome to Yamanashi!

～山梨とであう・山梨でくらす～

令和8年5月22日（金）～ 7月26日（日）

山梨県には、2万4千人を超える外国人が暮らしており、その数は年々増加しています。また、コロナ禍で落ち込んだ外国人観光客数も回復傾向にあります。

この展示では、県内での生活や観光に役立つ多言語資料をはじめ、多文化共生、日本語学習、外国人雇用に関する資料など111冊を紹介しました。

今後も、山梨を訪れる方、暮らす方、そして迎える方が、ともに安心して快適に過ごせるよう、様々な情報を提供していきたいと思います。

（調査サービス担当　武田）

県図書TOPICS

TOPIC1 「全国放送番組アーカイブ・ネットワーク（番組アーカイブネット）」を開始しました

「全国放送番組アーカイブ・ネットワーク」を、令和8年2月6日より、全国で７番目に開始しました。懐かしいバラエティ番組や音楽番組に加え、富士山や吉田の火祭りといった山梨にゆかりのあるテレビ・ラジオ番組474本が、利用者PC席で視聴できます。

（情報システム担当　中込）

TOPIC2 アパラチア山脈生まれの弦楽器! マウンテンダルシマーの響きを楽しみました

令和8年5月10日、「おんがくかいぶらりvol.57 マウンテンダルシマー奏者　岡田正樹」を開催しました。珍しい楽器ということもあり、演奏会は岡田さんによる丁寧な解説を交えながら進められました。来場者は、楽器の特徴や音色について理解を深めつつ、演奏を楽しみました。

（企画振興担当　望月）

TOPIC3 子どもの読書オープンカレッジ(第2回)を開催しました

令和8年7月8日、JAPAN絵本よみきかせ協会®代表理事の景山聖子氏を講師に、「読み聞かせの疑問や不安が自信に変わるコツ～これでいいのか?が、これでいいのだ!へ～」と題し、ワークショップを開催しました。講師による解説の後、参加者同士で例文を読み合いました。

（子ども読書推進担当　佐久間）

TOPIC4 かいぶらりシチズンカレッジ「食育セミナー」を開催しました

令和8年6月20日、山梨秀峰調理師専門学校専任教員の渡邊恵美子先生をお招きし、「食育セミナー～人生100年時代に心がけるべき生活習慣～」を開催しました。高校生から70代まで幅広い年代の参加があり、質疑応答も活発に行われるなど、充実したセミナーとなりました。

（企画振興担当　望月）